

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
設計・計画に関する こと	1	なぜ呑川（河川）の下を貯留管のルートとして選定をしなかったのか。	強い雨の時に雨水吐口から呑川へ汚水混じりの雨水が流れ出ています。今回の事業は、この雨水吐口の手前で取水を行い貯留管に流す計画としています。 そのため、呑川の脇の道路上で取水し、直近の公道（都道・区道）の下に貯留管を設置する必要があります。 また、河川法の規則において、河川の下に工作物を縦断的に占有することが原則禁止されています。 側道の部分も河川区域となっているため、法律上は同様の位置づけとなっています。
	2	今回の到達位置に大きな立坑を作らず、東京工業大学で作っているものを活用することはできなかったのか。 貯留管の整備ルートをなぜこの箇所を選んだのか。	東京工業大学の工事は、呑川上流域の浸水対策事業であり、本工事で行う合流改善事業とは異なるため、同じ箇所を利用して、工事を進めることはできません。 本事業は呑川沿いの雨水吐口の手前で取水をする必要があるため、このようなルートを選定しています。
	3	土質調査について、雪谷中学校近辺の調査は行ったのか。 行っている場合、いつ頃行っているのか。	雪谷中学校付近は、昭和38年に土質調査を行っています。
	4	事前の調査で土質調査をしているが、土質として問題はないのか。	事前の土質調査（7箇所）より貯留管を設置する土質は、固結シルトと呼ばれるN値50以上の非常に固い土層であることを確認しています。 さらに、工事着手前に追加で土質調査を2箇所行い、その結果を踏まえ、地盤として安全であることを再確認し、工事を進めていきます。
	5	第二期、第三期工事について、立坑工事説明会の時は、工事スケジュールが未定であると聞いているが、この先の工事については、いつ頃、どのような検討を経て決まっていくのか。 現在のルート完了後に状況を見てから判断するということもあるのか。 その場合、東調布公園の建屋（防音ハウス）はいつまで立っているのか。	第二期、第三期の工事については、現在、概略設計は完了しており、詳細な設計を始めたところです。 今回工事完了後に引き続き、第二期、第三期の工事についても進める計画です。 現時点では下水道工事として令和14年度まで東調布公園をお借りする予定です。
	6	工事現場の壁には、来年には工事が終わるような日付が貼ってある。 この工事が何年も続くということを工事現場に明示していただきたい。	地域の皆様への広報の仕方として、工事現場にはデジタルサイネージで事業内容、工事進捗をお知らせしています。 今後は、更にわかりやすく地域の皆様にお知らせできるよう、HPの活用など広く周知できる工夫をしていきます。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
設計・計画に関する こと	7	将来計画ルートは令和14年までに終わらないと思う。 令和14年以降は別の場所で工事をやってほしい。	現時点では令和14年度末の完成に向けて事業を進めており、まずは上流ルートを先行して整備を行います。引続き工事の安全に配慮し、事業の早期完成を目指していきます。
	8	このような説明会は、次はいつのタイミングで開催予定なのか。	説明会は貯留管各ルートの工事毎に開催を予定しています。
	9	工事完了後の東調布公園における整備計画、スケジュールについては決まっているのか。	公園全体の再整備については、現時点では計画は立てていません。東調布公園は昭和39年開園の古い公園であるため、現在工事で使用している屋外プール跡地の再整備に加え、野球場、交通公園も含めた全体で再整備の計画が必要だと認識をしています。今後検討を行っていく予定です。
	10	目黒区・世田谷区の上流域についても合流改善工事は計画されているのか。	上流域では、浸水対策事業を優先して取り組んでいます。現時点では、本事業のような貯留管を設置する計画はありません。 (ただし、ごみなどの流出を抑制する対策を行っています。)
	11	中原幹線と新設貯留管、取水マンホール②の位置関係はどうなっているのか。	中原幹線の取水口と新設貯留管は交差しますが、中原幹線の土被りが約2.5m、今回の貯留管の土被りが約22m程度であり、十分に離隔が取れています。 取水マンホール②と中原幹線の離隔も平面的に50m以上離れており十分に確保しています。
	12	合流式下水道改善の施設について、すでに完成している施設の例とその施工方法の実績を教えてください。	都内の実績として一つの事例を挙げると、目黒川に上目黒幹線という施設があり、平成23年より稼働しています。 施工方法は今回工事と同様に、シールド工法にて実施しています。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
設計・計画に関する こと	13	本事業による効果はどの程度あるのか。	雨水吐口から河川に放流される回数が削減されます。 雨の降り方にも左右されますが、すでに運用を開始している目黒川の上目黒幹線貯留管の例では、年間56回放流されていたものが、14回まで減っており、約7割の削減効果が確認されています。
	14	東調布公園にある防音ハウスに強いストレスを感じている。 前回説明会で防音ハウスの高さを13mよりさらに下げてほしいと要望したが、どのような状況か。 令和14年までは我慢できない。景観を妨害しているため、最善策を考えてほしい。	防音ハウスは、工事の騒音を防ぐために設置しています。 前回の意見を踏まえて改めて検討しましたが、今回の貯留管工事はシールド工事に必要である最低高さ13mの防音ハウスで工事を進めていきたいと考えています。 将来の計画ルート時の防音ハウス形状等については、別途、検討していきます。
立坑設置 工事に関する こと	15	立坑工事の説明会から工期に関して変更はあったのか。	前回説明会では、立坑工事は令和5年度末までと説明をしていますが、現在1年ほど遅延しており、令和6年度末までとなっています。 そのため、貯留管工事についても令和6年度から8年度までとお示していましたが、1年遅れて令和9年度までの予定となっています。
	16	①立坑工事が当初よりも工期が伸びている理由は何か。 ②今後の工事含め同様に遅れることがないように対策などはとるのか。	①主な理由は、工事前の土質調査（ボーリング調査）により、地中内に被圧水層があることが判明し、工事を進める中で、地下から水が湧き出てくることが想定されたため、その対策を追加したためです。 ②貯留管工事については、シールド工法を予定しており、もともと地下水のある地盤での工事を想定しているため、現時点では工事の遅延は考えておりません。
貯留管 設置工 事に関 する こと	17	シールド掘進時は ①土砂の搬出車両はどの程度通るのか。 ②工事期間中を通して土砂搬出車両の通行があるのか。	①掘削土砂の搬出頻度は、最大で1日16台を想定しています。 搬出・運搬は昼間のみを計画しております。 ②トンネルを掘っている期間は、東調布公園のヤードから土砂運搬車両の通行があります。
	18	掘削土砂はどの程度の量が出るのでしょうか。 また、土砂の処分はどのように行う予定ですか。	土砂の発生量は15,000m ³ 程度です。 掘削の土砂については、自然由来のヒ素が含有する可能性があることから産業廃棄物として処分を行います。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
貯留管 設置工 事に関 するこ と	19	東調布公園西側にある水神公園は湧き水が出ていると聞いたことがあり、呑川にかけて地盤が緩く、バス通りの下にシールドトンネルができることは不安である。	シールド工法については、泥水式シールドという工法で行い、地下水があるところでも、採用している工法で施工します。 工事期間中も地表面に変状が無いことを確認しながら、安全に工事を進めていきます。
	20	バスや大型車が通ると揺れる。 振動は発生するのか。	ダンプ等の通行時に振動が発生する場合は、運転手への徐行等を指導し、配慮して通行するようにします。
	21	トンネルを掘削するときの振動は発生しますか。	今回のシールドが掘進を予定している地下20mから35mの区間は、全て泥岩層と呼ばれる非常に固い地層です。 そのため、目立った振動は発生しないと想定しています。
	22	学校や公園などの施設が多い、青年館通りをダンプが通ることは極めて不適切である。ルートの変更やダンプの通る回数を減らすなどの改善策を考えるべきである。	小学生の登下校時間帯は、交通誘導員の配置や極力車両の通行を減らすなどの安全対策を引き続き行っていきます。 お気づきの点がございましたら、その都度ご意見を頂ければと思います。
	23	取水マンホール①、②の位置に大きな立坑を作るが、土砂の搬出などでダンプは何台くらい通るのか。	取水マンホール①、②に作る立坑掘削の土砂については、立坑掘削部からの土砂搬出を計画しており、取水マンホール①については、10tダンプで1日4台程度、取水マンホール②については10tダンプで1日2台程度の搬出を想定しています。
	24	取水マンホール①、②の工事期間はどの程度か。	準備調査工については、令和6年8月末より実施します。 取水マンホール①については、令和7年7月から本格的な立坑掘削工事、トンネル接続工事に着手する予定です（工期末頃まで実施予定）。 取水マンホール②については、令和8年7月から夜間施工で、本格的な立坑掘削工事、トンネル接続工事に着手する予定です（工期末頃まで実施予定）。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
貯留管 設置工 事に関 すること	25	取水マンホール②の工事による交通規制はどのようになりますか。	取水マンホール②の事前調査工は昼間施工を予定しており、前面片側1車線道路を片側交互通行とし、側道は車両通行止めとする計画で、警察協議を進めています。 本格的な立坑掘削工事につきましては、夜間施工を予定しており、同様の交通規制が夜間に発生する計画です。
	26	工事中の振動はありますか。 （取水マンホール②付近について）	建設重機を使用するため振動は発生します。 建設重機の選定の際は、低騒音型の機械を選定し、アイドリングストップを行うなどの対策を行いながら、騒音・振動に配慮して工事を進めていきます。
	27	到達立坑部分の施工について、発進立坑のように防音対策をとることはできないのか。	到達立坑部は公道（道路上）にて施工を行うため、防音ハウスの設置はできません。 使用機械について、低騒音型を採用したり、アイドリングストップを行うなど騒音に対して対策を行っていきます。
	28	薬液注入を行うことはあるか。	取水マンホール①、②付近において、薬液注入を実施する予定です。
	29	薬液注入工事が周辺に影響を及ぼすことはあるのか。	薬液注入工事の前にボーリング調査を行い、土層等の状況を把握し適切な薬液注入工法（地盤改良工法）を周辺に影響がないように選定していきます。 なお、薬液注入工事実施にあたっては、東京都の薬液注入工法暫定取扱指針に則り、井戸調査を行うなど、周辺に影響を及ぼさないよう安全に施工していきます。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
家屋調査に関する こと	30	影響範囲について、20～35mと話していた。 スライドに影響角と記載があったが何度なのか。	影響角は45度で、深さに応じて影響範囲が変わります。
	31	家屋調査の事後調査は何年後くらいを考えているのか。 この20～30mという土被りであると、影響というものは40,50年後 ぐらいに影響が出てくると思う。	事後家屋調査は東京都下水道局の補償の手引きに則り、周辺の地盤が安定 すると考えられる工事完了後から約6か月後に、家屋調査を実施する 予定です。
	32	家屋調査の対象範囲がわからない。スライド資料をいただくなど、家屋 調査対象か教えていただくことは可能か。	スライド資料の範囲は後日、区HPで公表予定です。 家屋調査対象となるかは、個別にご連絡いただければ回答します。 家屋調査対象範囲外でも、ご希望があれば調査を行います。
	33	家屋調査のピラはマンションも各戸配布されるのか、マンション全体で の配布・調査となるのか。	マンションは形状等により調査範囲が異なる場合もありますので、個別 に確認させていただきます。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

	No.	ご質問・ご意見	回答
その他	34	川沿いに大量発生しているユスリカは、この工事により改善されるのか。	呑川河床の藻の中にユスリカの幼虫が付き、そこから羽化して大量発生しています。 本事業は下水から出てくる特に汚れた下水を貯留する工事であるため、ユスリカの対策とはなりません。
	35	貯留管の中に入る汚水は最終的にどこに行くのか。 呑川に流すのか。 また、溜まった汚れはどうするのか。	貯留管に貯めた汚水混じりの雨水は、晴天時に既設下水道管にポンプにて排水し、水再生センターへと送ります。 そのため、呑川に直接放流することはありません。 溜まった汚れについては、基本的に年に1度清掃を行う計画です。
	36	運用後の臭気や環境への影響について教えてほしい。 特に汚れた下水が溜まるということで、臭気などの影響が想定されるのか。	臭気の心配があると思いますが、貯留した汚水混じりの雨水は、晴天時に48時間以内に排水し既設下水道管に排水することとしています。 また、都内に同様の施設がありますが、臭気による苦情はない状況です。 管の中に泥なども溜まるため、年に1度は清掃を行い、汚れや臭気等の対策を行います。
	37	貯留施設に実際に貯留されるのは年間何日くらいなのでしょう。	雨の降り方に左右されるため、一概には言えませんが、すでに運用を開始している施設の例では、年間約40回ほど貯留した実績があります。
	38	文化財、遺物等が出てきた場合は、教えていただきたい。	歴史的なものが出た場合は、埋蔵文化財の調査対象になるため、適切に対応していきます。
	39	晴天時に護岸側面の穴から水が出てきているが何か。	護岸の背面の水を抜くための水抜き穴です。 基本的には汚い水が出てくるものではありません。
	40	この工事完了後、既存の吐口も減るのか。	降雨時に貯留管が満管になったあとは、街を浸水から守るため吐口より雨水を放流する必要があることから、吐口の数はそのまま減らさず活用します。

呑川合流改善貯留施設貯留管設置工事 工事説明会（令和6年7月25日、28日、8月1日、3日） 質疑応答一覧

No.	ご質問・ご意見	回答
41	合流改善が進んだ結果、中流域においてなにか改善されるのか。	降雨初期の特に汚れた下水が河川に放流されなくなるので、吐口から出てくる放流水の水質や臭気が改善されます。
42	説明会開催における広報について、どのようにしていたのか。	令和6年6月21日、24日開催の大田区議会まちづくり環境委員会にて工事説明会の開催について区議会に報告しています。 区民の方へは、7月11日に区報、公式LINE、公式X（旧Twitter）にて広報しており、貯留管設置位置の沿線にお住まいの方には、お知らせビラを配布しています。
43	今回工事の貯留管とリニア中央新幹線の位置関係を教えてほしい。	本工事の貯留管の深さは、リニア新幹線と交差する付近では地下約25m程度です。 JR東海より聞いている情報では、リニア中央新幹線は当該箇所地下約60mから65mの位置を通る計画と聞いています。 離隔として、35m程度が確保されています。
44	貯留管工事においてリニア中央新幹線の工事は影響ないのか。	土木学会より発刊されているトンネル標準示方書においては、外径の1.0倍以内の離隔となる場合には、十分な検討が必要であると記載があります。 今回はリニア中央新幹線のトンネル外径が約14mとなり、貯留管との離隔が外径の約2.5倍の35m程度あるため、安全に施工ができると想定しています。
45	JR東海のリニア中央新幹線と近接すると思うが、工事の進め方など連携はとれているのか。	JR東海とは下水道工事を施工するにあたって昨年度から協議を行っています。引き続き、施工協議を継続しながら安全に工事を進めていきます。
46	取水マンホールが設置される箇所、周辺の人へのメリット、デメリットを教えてください。	メリットは雨水吐口から河川への放流回数が減ることによって、放流水の水質と臭気が改善されます。 デメリットは工事期間中の騒音、振動が発生することが挙げられます。 極力ご迷惑をおかけしないように配慮するとともに、安全に工事を進めていきます。

その他